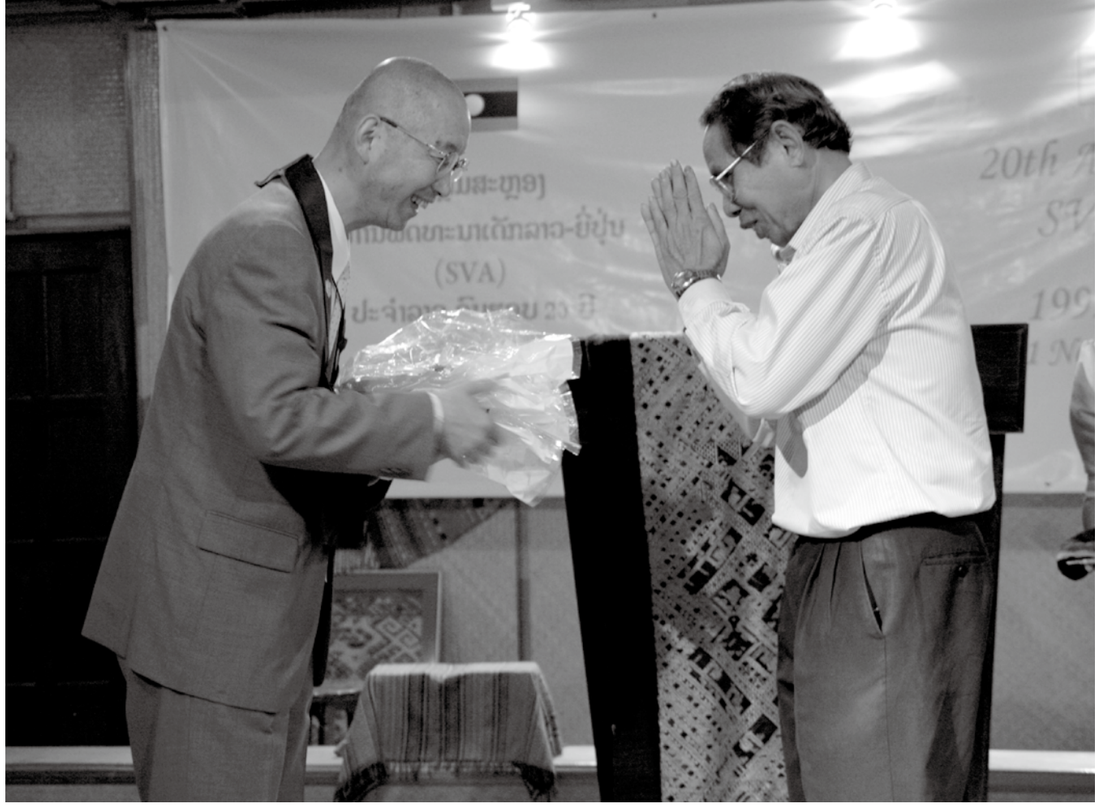
シャンティ　2013 年 4 月 1 日発行　増刊　通巻 270 号
1985 年 6 月 28 日第三種郵便物許可　ISSN1343-4748

2012-2013

2012年度年次報告／2013年度活動計画

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会



ラオス事務所20周年式典にて

現地の人々が主人公になる活動を

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA） 会長 若林恭英

日頃から、シャンティ国際ボランティア会（SVA）の活動にお力添えをいただき、心より感謝申しあげます。

一昨年は、SVA設立30周年を閲し、また公益社団法人へと衣替えをし、活動の透明性と組織基盤の整備を鋭意行ってまいりました。2012年はこの流れをさらに進めると共に、設立当初からの理念「共に生き、共に学ぶ」の精神は確かであるか、各現場の活動をそうした視点で振り返りました。

昨年と今年は、SVA3カ年目標の2年目と3年目（最終年）にもあたります。①図書館活動を通じて、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタンの165万人の子どもたちに読書の機会を贈り届けること、②各国事務所の自立運営に向けた取り組みを促進し、より困難な立場にある国においても、これまでの経験を生かした教育・文化支援事業を新たにスタートさせること、③SVAの活動に共感し、「共に生き、共に学ぶ」社会の実現に向けて行動を共にしてくれる人々の輪を広げていくこと。

以上の重点目標を掲げ、教育・文化支援をより必要としている子どもたちに学びの機会を届けていくことを目指しています。それと同時に、一昨年の東日本大震災で被災された方々に対し、組織を上げて復興支援を継続しています。被災地では、いまだ希望を見いだせない現状ですが、そっと寄り添う活動をしていきたいと念じています。

一方、昨年はラオス事務所を開設して20年の節目となりました。謄写版の事業から始まった活動も、現在では公共図書館のシステムの仕組みづくりの支援を行うまでになりました。現地の教育省をはじめ関係する団体と連携強化・情報共有し、現地の人々が主人公になるよう留意し活動を展開しています。

激変しているアジア、その光と影。我々は草の根レベルの活動を通じ、多くの子どもたちが、その未来に希望を抱けるシャンティ（平和）な社会を実現していけるよう、皆さまと共に歩んでゆきたいと念願しています。

SVA宣言
私たちの願い

SVAは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、争いは対話を持って解決される社会のことです。

SVAは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切にし、考える力や想像力を培い、社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。

1980
SVAの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立。カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所開設。

1981
JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会（SVA）を結成。

1984
初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。

1985
タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイのチェンカーンとバンコクにあるスアンプルースラムで図書館活動開始。「クラフト・エイド」始まる。

1989
タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。

1991
カンボジア事務所開設。タイにSVAの現地法人シーカー・アジア財団を設立。

1992
ラオス事務所開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。

1995
阪神・淡路大震災支援。

1999
「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。「絵本を届ける運動」開始。

2000
ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所開設。有馬実成元専務理事逝去。

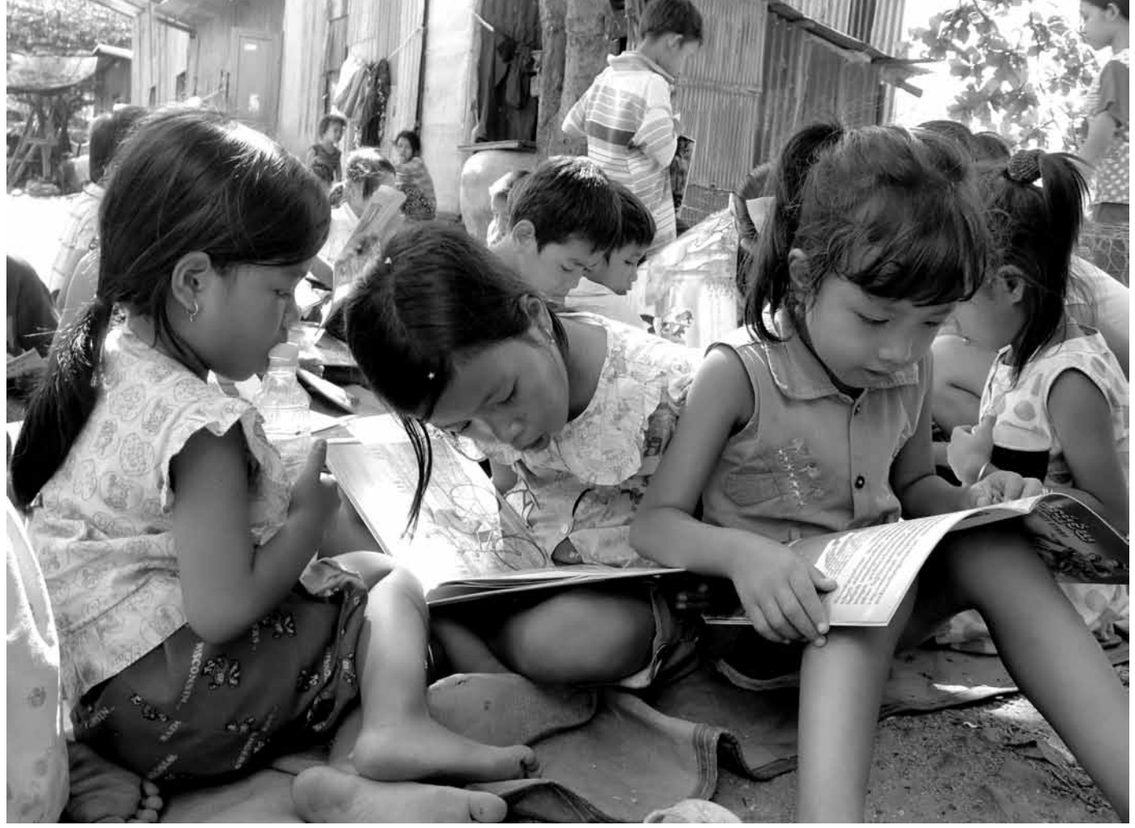
2001
米国同時多発テロ後アフガニスタン難民支援活動実施。
「リサイクル・ブック・エイド」開始。

2003
アフガニスタン事務所開設。有馬実成著「地球寂静」出版。

2005
愛・地球博「地球市民村」へ参加。
「アジアの図書館サポーター」開始。

2011
宮城県気仙沼市、岩手県遠野市に事務所を構え東日本大震災被災者支援実施。SVA30周年。
「図書館は、国境をこえる」出版。

2012
宮城県に山元事務所を構え、山元町と福島県南相馬市での移動図書館をスタート。



2012年度を振り返って

日本全土に大きな悲しみをもたらした東日本大震災から2年が経過した今、同じ自治体の中でも暮らしの再建に向けた速度の差が目に見えて広がり、これまであった地域の姿が変わりつつあるのを感じています。福島第一原子力発電所の事故の影響を受けた地域では、出口の見えない苦難に直面する人々の存在が、目をそむける事のできない事実として存在し続けています。私たちが取り組むまちづくりや仮設団地をまわる移動図書館のすべては、人と人のつながりを失うことなく互いに支え合い、人々自らが未来に向けて歩みを進めていくための活動とも言えます。9月からは、宮城県山元町に3つ目となる拠点事務所を開設し、同町並びに福島県南相馬市にて移動図書館活動を開始しました。

海外では、SVAの設立と同時にスラムや農村・山岳部において取り組みを続けてきたタイ事務所の現地自立化を進めるとともに、他の事務所においても将来その国の人々がより主体となって組織運営がなされていく姿を描いた運営現地化行動計画を作成するにいたりました。2013年までの3年間を目標として掲げてきた「165万人の子どもたちへ読書の機会を」については、ミャンマー（ビルマ）難民の第三国定住やアフガニスタンの治安悪化などの困難と向きあいながらも、2012年に67万8千人、述べ148万人に贈り届けることができました。

①メラウ難民キャンプでのおはなし会
②カンボジアの仲良し3人組
③ラオスの研修会では教材作りの実地もある
④配布された絵本の物語をノートに書き写す男の子
（撮影：鈴木孔平）
⑤学校建設現地のモニタリング

2013年度に向けて

165万人の子どもたちへ
読書の機会を贈り届けます

海外4事務所の取り組みを通じて31万7,000人の子どもたちに読書の機会を新たに送り届けていきます。

各事務所の自立運営に向けた
取り組みを促進させ、
より困難な立場にある新たな国での
教育・文化支援事業を
スタートさせていきます

◎2015年を目指したタイ、シーカー・アジア財団（SAF）の組織自立化（第4カ年目）を進展させます。
◎カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタン各事務所の運営現地化3カ年行動計画を開始します。
◎ミャンマー（ビルマ）における新規事業展開を目指して、事業形成調査と準備事務所設立を進めます。

SVAの活動に共感する支援者を
新たに8,000人増やしていきます

◎アジアの図書館サポーター、会員、絵本を届ける運動、リサイクル・ブック・エイド、クラフト・エイドの取り組みを中心として、SVAに応援してくれる人を増やします。
◎ソーシャルメディア（SNS）の活用を進め、情報の発信、認知度の向上に努めます。

その他の主な取り組み

◎カンボジアでは首都プノンペンから、地方2州において事務所の主たる機能を移行させ、よりアクセスが困難な地域への支援を強化していきます。
◎ラオス、アフガニスタンでは、2014年度にむけて新たな事業形成と展開を開始、事業対象地域も新たにしていきます。
◎東日本における復興支援事業の第2フェーズ（2015年12月まで）をスタートさせ、被災者の自立支援に向けた取り組みを継続していきます。
◎海外および国内における災害救援の取り組みを再開させます。
◎地域における会員、協力者と協力して地域におけるつどいを開催し、活動への参加機会を広げ、連帯を強化していきます。

≪2012 2013≫

タイ
Thailand

「ある物」でおもちゃをつくる

公用語	タイ語
首都	バンコク
面積	514,000㎢
人口	6,408万人（2011年、IMF）
GDP	一人当たり5,395USドル（2011年、IMF）
通貨	バーツ（B）
日本との時差	－2時間

❖2010年の反独裁民主戦線（UDD）による大規模なデモ活動、昨年の大洪水の発生を振り返ると、タイ王国の2012年は比較的安定した年となりました。2011年に誕生した女性初のインラック首相が継続して政権を執り、国民融和や貧困対策を推進しています。3月11日には、東日本大震災で大きな被害を受けた日本を応援するイベントが開催されています。

タイ政府は、2009年より一切学費がかからない無料保障教育制度の期間を12年間（小中高校）から、就学前3年間を加えた15年間へと変更しました。しかし、運営資金が不足し保護者からの追加徴収をせざるを得ず、経済力の弱い地方の保護者にとっては大きな負担となっています。そのため、タイとミャンマー（ビルマ）国境地帯での図書館活動に重点を置き、5,204人の子どもへ読書の機会を届けました。

2012年は、自立化計画に向け、人材育成を含め様々な取り組みが行われましたが、現地体制の変化が生じ一時期計画が停滞する状況も発生しました。なお、自立後のあるべき関係性を描いた両団体間の新合意書は、2013年3月に交わされる予定です。

2012

図書館事業

チュアパーン図書館移譲

20年近く運営をしてきたチュアパーン図書館の行政への移管のために、コミュニティ委員会、住民、託児所先生の計8人が図書館運営委員会委員となり、同委員会、SAF代表、行政担当者による会議が実施されました。そして、住民委員会が必要書類をバンコク都へ提出しました。その後、ヤンナワー区地域開発課へ提出されました。

同図書館の、年間利用者数は1万1,251人（内、子ども6,514人）。年間9回のイベントが開催され、延べ2,576人の子どもが参加しました。

国境地域における読書推進

タイとミャンマー（ビルマ）の国境にあるターク県のウンパーン地区で移動図書館活動を20回実施し、3,372人が参加しました。またミャンマー（ビルマ）移民の子どもたちが通う学校を対象に移動図書館を50回行い、5,504人（内、子ども5,204人）が参加しました。

図書館活動などについての知識を獲得するため3回の研修会を開催し、144人の保育士・教員が受講しました。

クロントイ地区
図書・読書活動推進

バンコクのクロントイスラムにある図書館の年間利用者数は9,065人（内、子ども4,807人）となりました。子どもの日や新年などのイベントが開催され、延べ2,208人の子どもが参加しました。

奨学金事業

バンコク・スラム地域だけではなく、パヤオ県やターク県のミャンマー（ビルマ）移民の子どもたち、合計396人（内、中学生216人、高校生158人、大学生22人）に対して奨学金を支給しました。授与式の際には、ターク県の学校と会議を開き、今後の相互の情報交換についての話し合いを行いました。

各地の奨学生代表37人（バンコク13人、パヤオ12人、ターク12人）を集めバンコク周辺で人材育成キャンプを実施。自分の地域だけではなく、他の地域の状況や奨学生を知る機会となりました。

中高生学生寮事業

学生寮では山間地に移住する少数民族の中高生合計44人（中学1年11人、2年9人、3年1人、高校1年6人、2年4人、3年13人）を受け入れました。この学生寮の現地運営化を進めるべく、寮で育てた野菜や家畜などを販売し、それを運営費として当てています。また食費にかかる経費の削減にもつながっています。

スアンプルー保育園運営移管事業

105人の児童が学ぶ保育園の運営移管に向け、地区住民のリーダーを中心とした保育園運営委員会と、サトーン区地域開発課との協議が進んでいます。地域住民委員会より委員、並びに保護者の代表が選出され、保護者会が開催されました。区へは申請書を提出しており、正式な承認を待っている段階です。

その間にも、適切な保育と就学前教育を行うために保育士にトレーニングの機会を提供しました。保育士は、6回の研修会に参加しました。新しいものを買い求めるのではなく、新聞紙などある物で教材を作る手法などを学びました。

2013

奨学金事業

- パヤオ県モン族、ターク県カレン族およびミャンマー（ビルマ）移民、バンコク・スラム地区の小中高生376人および大学生24人の計400人へ奨学金を支給。
- 家庭訪問を年2回実施。
- 奨学生の各地代表50人を対象とした交流キャンプを開催。

奨学金事業以外は、SAFが独自に活動を継続していく予定です。

①国境地帯を回る村に移動図書館
②おはなしを聞きに来たお姉ちゃんと弟
③人形劇がやってきた
④教材づくりの研修会
⑤奨学生の家庭訪問

カンボジア

Cambodia

スラムでの調査

公用語	クメール語
首都	プノンペン
面積	1,810,000㎢
人口	1,510万人（2011年、IMF）
GDP	一人当たり854USドル（2011年、IMF）
通貨	リエル（KHRR）
日本との時差	－2時間

❖2012年、カンボジアはASEAN議長国として活躍、経済成長率7％を達成するなど目まぐるしい発展を遂げました。政府は、2015年のASEAN連合確立をめざし、その準備を加速化している一方で、広がる経済格差、伸び悩む教育の質、貧困、非識字者など、挑戦すべき課題は山積みのままです。昨年10月には、シアヌーク元国王がご逝去され、カンボジアの近代史の一つの幕が閉じました。

2013年、カンボジア事務所は、カンボジア北部のシエムリアップ州とバッタンバン州に地方事務所を設置します。カンボジア政府は、地方分権化に力を入れており、中央政府から州レベルに権限の移管が進められています。そのため、主要な会議も地方で行われることが増えました。北部は、いまだに貧困にあえぐ人々が多い地域です。そこに事務所を構え、人々と寄り添い、草の根の活動を行ってまいります。

2012年から事業計画・報告を効率的にするための各種フォーマットの改善、出版絵本・蔵書絵本の管理用のデータプログラムを設置した管理方法の改善や、規定・総務マニュアル等を策定して管理面の強化をしています。2013年は事業運営の中で重要なモニタリングのシステム構築を進めます。また事業の質を向上するために専門家の投入なども検討します。

2012

ドリーム小学校事業

シエムリアップ州およびバンテイミンチェイ州に、5校（5教室校舎6棟、図書館5棟）の校舎および図書館建設を実施しました。洪水や手足口病の流行等の影響から、3棟の校舎および図書館は計画より遅れての完成となりました。図書館の家具のデザインは、小学校のガイドラインと一致させつつも、これまでの経験や様々な研修を通じたスタッフのアイデアが組み合わされたものとなりました。課題としては、図書館というと建設などのハード面に優先度を持たれることが多く、包括的な図書館の重要性への理解がまだ十分ではありません。今後、学校支援委員会、行政、教員、地域住民からの更なる参画、理解促進が事業の持続可能性のために重要となります。

ドリームスクール事業

シエムリアップ州およびコンポントム州で、4校（3教室校舎3棟、5教室校舎1棟）を建設しました。またバッタンバン州では1校の修繕を行いました。

建設において盛り土作業、メダルの登録、贈呈式の準備などは学校支援委員会が役割を担いました。

この事業は2012年が最終年となり、2013年に事業評価が実施されます。

住民参加による学校図書館運営事業

8校を対象に教育省が発行した「小学校図書館スタンダード」に基づいた図書館運営に関する研修会を開催し、図書館の装飾や備品や図書の提供、読書推進活動を行いました。

研修には8校で計116人が参加、図書館活動推進を目的としたイベントは3校で計1,610人が参加しました。

モデルとなる図書館づくりをするため、タイのSAFでワークショップを行いました。

絵本・紙芝居出版事業

絵本6タイトル（新規4、再版2）計1万8千冊、紙芝居1タイトル350部を出版し、114カ所の学校や関係機関に配布しました。

質の高い絵本の出版のために、絵本作家・画家の能力技術を改善が必要となっています。専門家からの指導をいただくことを計画していましたが、諸調整の関係上、2013年に持ち越されました。

伝統文化事業

スヴァイリエン州にて、寺院運営管理に関する研修会を開催。109人が参加しました。

また、本事業の理念と活動をより広めるための手引きを500冊作成し、その使い方の研修を行い106人が参加しました。

自然環境保護活動は地元住民に引き継がれていますが、財政的な問題から、スヴァイリエン州の寺院にある苗木育成所2カ所にビニールパックを提供しました。

本事業は2012年が最終年となり、2013年に事業評価が実施されます。

調査

バンテイミンチェイ州、シエムリアップ州、コンポントム州の6郡にある29地域にて、図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンターを開設するための調査を行いました。

首都プノンペンでは5カ所のスラム地区の255世帯、コミュニティーリーダー、子どもを対象に、現状調査を行いました。

また、全国の仏教寺院のポル・ポト時代の破壊からの復興と、寺の組織、行われている活動、仏教学校の現状を把握するために宗教省、各州宗教局の協力を得て、1都6州の112カ寺を実際に訪問し、聞き取り調査を実施しました。

2013

ドリーム小学校事業

- バンティミンチェイ州とバッタンバン州の6校に学校校舎、貯水設備、4室のトイレ、学校図書館を建設。
- 過去の建設支援校に、学校校舎1棟と学校図書館1棟を追加建設。
- 図書や教材を対象校に1年目、2年目に750冊ずつ配布。
- 維持管理や運営に関する研修会を開催。
- 地域住民の学校図書館への関心が高まるよう読書推進活動やイベントを実施。

住民参加による学校図書館運営事業

- 対象となる8校を調査。その後、図書館家具のサンプル作成、読書教材の配布、図書館内の装飾を実施。
- 「小学校図書館スタンダード」の普及や図書館員の技術向上にむけて研修会を開催。
- 絵本選定・購入のためのガイドを作成、配布、関連したワークショップを開催。

絵本紙芝居出版事業

- 作家や画家の技術・能力向上のため、教材およびプログラムを開発し、関連した研修会を開催。
- 絵本6タイトル（新規4、再版2）と紙芝居1タイトルを出版、配布。
- 絵本・紙芝居の評価基準や年齢別絵本・紙芝居分類表を開発。
- 児童作家のネットワークを強化するため、関連機関と連携会議を実施。

図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター（CLC）事業

- 図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター（CLC）を設立。
- 地域住民を対象に、CLC運営やCLC図書館活動についての研修会等を実施。
- 成人向けの読書教材の開発、対象地域でのCLCの推進活動、州・郡レベルにおけるCLCのネットワーク構築。

①建設前の小学校
②建設した小学校で学ぶ子どもたち
③自然保護の活動として植林をしている寺院

ラオス
Laos

おはなしの世界へ

公用語	ラオス語
首都	ヴィエンチャン
面積	240,000㎢
人口	629万人 (2011、IMF)
GDP	一人当たり1,320ドル（2011、IMF）
通貨	キップ(Kip)
日本との時差	－2時間

❖年率8.0%の経済成長、アジア欧州会合のホスト、世界貿易機構（WTO）への加盟など、国際舞台への参加が促進された都市となりました。また、教育分野においても小学校の運営予算の配賦、教員の待遇改善などが図られてきているものの、少数民族や女子への教育などマイノリティへの格差は尚も課題となっています。

2012年は事務所運営においては、政府との覚書（MOU）の1年間の更新が行われました。また会計規程などを中心に新たな規則の策定や会計管理、総務マニュアル案の作成を行うなど、管理面の強化を実施しました。人材育成面では、ジェンダー主流化、教育指標、障がい者の権利意識化、リーダーシップ研修を実施し、事業形成プロセスにつなげています。また、ラオス人職員が教育分野の国際会議や政府・他機関との会議にも出席しました。

2013年は既存の事業の未にモニタリングを実施し、ラオスにおける教育分野での課題についての調査を行うと同時に、職員の事業運営の能力強化を図ります。

2012

図書館および青少年育成事業

図書館活動を通じ、18万1,867人の子どもたちに読書の機会を届けることができました。JICA草の根技術協力事業として公共図書館支援を実施。自立運営のための資金・人材の獲得、アウトリーチに関する研修会などを通じて、図書館員が主体的に小学校や行政機関とも連携をして活動を広げるなどの成果が出ています。9県の公共図書館利用者数も前年比で7%増加しました。

4タイトルの絵本出版を実施。東京で行われた評価結果をふまえ、ダミーを作成するなど作成プロセス上での工夫がなされた一方で、会議において作家の不参加が多く、何度も挿絵を修正してもらうなどの課題もありました。

学校教育支援事業

サラワン県にて2校（6教室1棟、3教室1棟）、ボリカムサイ県にて1校（3教室1棟・トイレ設置）の小学校建設を実施しましたが、村人たちによる木材調達の遅れや雨季での資材運搬の困難さから計画より数カ月の遅れが生じ、年内に完了したのは1校のみでした（残り2校は2013年の年明けに完了）。

今後は、建設確認の頻度を高め、写真も使って確認を行い、計画より遅れそうな場合は関係者で話し合って早めに対策を決めていきます。本事業の成果として、3校あわせて434人の子どもたちが安全で快適な教室で学ぶことができました。

12月より外務省の日本NGO連携無償資金協力を通じてルアンパバーン県にて小学校建設、トイレや給水設備の整備、村による学校運営やトイレ管理のための研修会を含む総合的な教育環境改善支援の活動に着手しました。少数民族の多い新しい事業地において順調に行政機関や村との関係が築かれ事業が進んでいます。

2013

ルアンパバーン県におけるコミュニティ参加による学校教育環境改善事業

- 5校の学校校舎を建設。障がい者、高齢者、就学前児童などを考慮した設計を導入。学校により衛生設備（トイレ、給水施設）を設置。
- 学校内配置図作成研修、学校運営計画策定研修、トイレの使い方を中心にした保健衛生研修を実施。
- 2011年度、2012年度事業対象地の事後フォローアップをし、維持管理の定着を図るため、県・郡教育行政官と共にモニタリングを実施し、学校運営方法を習得してもらう。また必要に応じた教員配置などのサポートを行うよう推進。

図書館および読書推進事業

- 公共図書館のサービス運営管理能力が自立的運営レベルに達することを目標に、前年までの小学校などへのアウトリーチ、予算確保のための研修を経たモニタリング、公共図書館事例集の作成と図書館員、国立図書館、情報文化観光省への研修を実施。
- 首都郊外の小学校を対象にした移動図書館活動では、教員への研修会後、実際の移動図書館活動を通した実地研修を実施。
- 常設図書館では事務所周辺の子どもへの読書の機会を提供。
- 絵本4タイトルを出版、配布。

①建設中の小学校（撮影：鈴木孔平）
②絵本を使ったよみきかせの仕方の研修会
③図書室はお気に入りの場所
④ヴィエンチャン首都郊外での移動図書館活動
⑤20周年ラオススタディツアーを実施

ミャンマー（ビルマ）難民
Myanmar(Burma)Refugees

図書室での読み聞かせ（撮影：川畑嘉文）

◎主にカレン族が居住するキャンプ

メラウ	13,017人
メラマルアン	14,795人
メラ	45,115人
ウンピアム	14,929人
ヌポ	13,897人
バンドンヤン	3,518人
タムヒン	6,547人
合計	111,818人
2011年12月との人口の比較	－8,168人

（2012年12月、TBBC：Thailand Burma Border Consortium）

❖ミャンマー（ビルマ）の民主化プロセスは、難民問題の解決法を第三国定住から本国帰還へと緩やかに促進しています。しかし、様々な不安と期待に揺れる難民が、再び国境を越えて、新たなコミュニティで自立するプロセスはそう簡単ではなく、十分な準備が必要です。今後のキャンプ滞在はまさにその準備期間となり、NGOの支援も終盤の重要な局面に差し掛かっています。

2012年は、ミャンマー（ビルマ）難民支援事業の第4フェーズ（2010～2012年）の最終年でしたので、同年5月に事業評価を行いました。

評価結果を踏まえ、2013年から始まる第5フェーズは、図書館と教育機関との連携を基礎にした事業を展開します。難民キャンプの図書館だけではなく、読書推進の活動を学校にも広げてまいります。

運営面では、内外の資源を効率的・効果的に生かした事業の遂行、政府・国連資金や日本・タイ民間資金の獲得、ナショナルスタッフによる自主運営体制の構築に力を入れ、更なる「運営現地化」の推進を行っていきます。

2012

図書館事業

住民組織による活動運営

7カ所の難民キャンプで21館のコミュニティ図書館を運営しています。年間延べ利用者数は53万9,201人（内、17歳以下：32万3,285人、18歳以上：21万5,916人）でした。

カレン難民委員会教育部会（KRCEE）の組織図の傘下のノンフォーマル教育の中に正式にコミュニティ図書館が位置づけられました。また、難民キャンプ教育部会事務所(OCEE)の代表が図書館委員会の代表や副代表を兼務するなど連携促進の強化が見られました。

図書館運営の体制作り

2012年初めての取組みとして、各難民キャンプの図書館コーディネーター、キャンプ教育部会事務所（OCEE）代表者、カレン青年同盟（KYO）を対象とした図書館コーディネーターとしての役割などを学ぶための合同研修会を実施し、7カ所の難民キャンプから20人が参加しました。

伝統文化活動

キャンプ委員会、各少数民族グループとの連携により、「難民子ども文化祭」を4カ所の難民キャンプで実施しました。今年は「文化の多様性に誇りを持とう」をテーマに、各難民キャンプで暮らす6～12の民族の子どもたちが参加しました。普段同じ難民キャンプで暮らしていてもめったに会うことのない、さまざまな民族的背景を有する子どもたちが、交流レクリエーションゲームや伝統文化の披露を通して交流を深めることができました。

図書の出版

2010年に設立した「出版委員」ですが、メンバーがほかの仕事と兼任していたり、絵本出版の専門知識が十分ではないことから、一時解散しました。そのためSVAのスタッフで作業を行い、5タイトル2言語（カレン・ビルマ語各1,000冊）の絵本を印刷しました。

ウンピアム難民キャンプ大規模火災

2012年2月23日に事業地の一つであるウンピアム難民キャンプで、調理をしていた火が建物に引火し、大規模な火災が発生。3,019世帯、4,410人が暮らしていた区では、566戸が全焼、257戸が損壊の被害を受けました。 教育部会を通して、被災した学校への文具の配布や鍋などの生活用品の配布を行いました。

2013

- KRCEE（カレン難民委員会教育部会）及びOCEE（同キャンプ事務所）がコミュニティ図書館の運営を担い、そのリソースを主体的に学校教育機関とつなぐために必要な協働作業、研修活動を実施。
- 図書館施設（本、備品、建物など）が学校教育機関においても十分利用されるよう工夫し、とりわけ中高等学校生以上を対象にした学習参考図書を増設。
- 学校教育機関における学習支援を拡充するため、「移動図書箱」を既存の保育所・小学校や新規の中高等学校に対して普及。
- 絵本3タイトルを出版、配布。

①図書館員はやさしくて大好き
②難民子ども文化祭
③お母さんと子どもの触れ合いの場
④ウンピアム難民キャンプの火災

アフガニスタン
Afghanistan

出版した絵本と子ども図書館の子どもたち

公用語	パシュトゥン語、ダリ語
首都	カブール
面積	652,225km²
人口	2,983万人 （2011年、米国中央情報局）
GDP	一人当たり591USドル （2011年、財務省）
通貨	アフガニー（AFA）
日本との時差	－4時間30分

❖2012年7月、東京で10年ぶりにアフガニスタンに関する国際会議が開かれ、日本政府は約5年間で最大30億ドルの支援を約束しました。一方アフガニスタンでは、反政府勢力による攻撃など、厳しい治安状況が続きました。就学年齢児童の4割は今も学校に通えず、成人識字率は26%（女性13%）にとどまっています。

2003年から事業を行ってきたナンガハル州の治安が悪化したため、2012年度からカブール州で学校建設事業を開始しました。これにともない、メインの事務所をカブールに移転しました。2003年度からの当会の教育支援活動が評価され、NGOを管轄する機関である経済省より当会に感謝状が授与されました。国際NGOとしては3番目のことでした。

課題は、治安の悪化に伴い、日本人職員の渡航が困難になっていることです。今後も遠隔操作が続くため、アフガニスタン職員が、自律的に事務所や事業、財政を運営できるように、2013年も技術面、リーダーシップ面の強化を行います。

2012

郡部における図書館活動を通じた教育の質改善事業

学校教育を所管する州教育局に学校図書室を担当する課が設置されました。また図書室担当教員に対し、教育局より手当てが支給されるようになるなど、行政の学校図書室に対する取り組みが改善されました。

対象校での図書活動定着をめざし、2011年に続き、対象校37校での教員研修や図書館員育成研修を行いました。ただ、図書室の利用者数や貸出数には改善の余地があることから、引き続きモニタリングをしていきます。

絵本出版員会メンバーと画家、SVA職員計14人を日本に招聘し、日本の専門家の指導の下、絵本・紙芝居の質改善のための研修を行いました。研修の成果を生かし、児童図書8タイトルを出版しました。

ナンガハル州公共図書館改善計画

ナンガハル州の公共図書館5館を対象に、研修とモニタリングを行いました。利用者数は前年より増えたものの、貸出数は減っており、モニタリングの継続や新刊本の供与などが必要となっています。

ナンガハル州ジャララバード市で「子ども図書館」を運営し、図書・文化活動を行いました。不就学児童のための特別教室では、50人全員が修了し、引っ越した人を除く46人全員が公立校に編入しました。

2012年は本事業の最終年であることから、5月に評価調査を行い、同結果を踏まえ、2013年より「児童の読書推進事業」を始めることになりました。

学校建設を通した初等教育改善事業

カブール州において、16教室と8室（図書室、教員室など）からなる校舎とトイレを2校で建設しました。これにより、安全で快適な学習環境で学ぶ児童が48クラス2,400人増加しました（2013年3月時点見込み）。

2013

郡部における学校図書室事業

- 第2フェーズとしてナンガハル州とカブール州の計18校を対象に教員研修、図書室整備、移動図書館・モニタリングを実施。2012年以前に支援を開始した36校に対しては、移動図書館・モニタリングを通して図書館活動の定着を図る。
- 図書館活動を定着させるため、州教育局が図書活動を推進する能力と政策を改善させるように、教育局へ働きかける。
- 児童図書8タイトルを出版、配布。過去に出版した図書13タイトルの再版を実施。

児童の読書推進事業

- 公共図書館支援では、2011年より支援を始めたナンガハル州の公共図書館5館を対象に、研修やモニタリングを継続。新たにカブールの国立図書館の支援を開始。
- ナンガハル州ジャララバード市で「子ども図書館」を運営し、図書・文化活動を実施。不就学児童のための特別教室については、教育局や他のＮＧＯが同様の活動を行っているため、5月をもって終了。

学校建設を通した初等教育改善事業

- カブール州において、20教室と8室（図書室、教員室など）からなる校舎とトイレを2校で建設。机・いすなどの備品を供与。
- 5カ年計画で開始した本事業は2013年に最終年度を迎えることから、上期に事業評価を実施。2014年以降の事業立案に向け、調査を実施。

①建設前、簡易テントの校舎で勉強する子どもたち
②完成した校舎
③図書活動普及のための教員研修
④学校図書室で本を読む
⑤出版した絵本と紙芝居

緊急救援
Emergency Relief

本は人を介すことで生きる（岩手）

2011年3月11日に起った東日本大震災は、死者1万5,879人、行方不明者2,700人、全壊家屋12万8,911戸、半壊家屋26万8,882戸（2013年1月16日、警察庁）と、広域に甚大な被害を及ぼしました。SVAは3月15日から被災地に入り、炊き出し、物資配布などの活動を実施。宮城県気仙沼市と岩手県遠野市に事務所を構え、被災者支援活動を行っています。

また、2012年は宮城県山元町にも事務所を開設。山元町と福島県南相馬市でも活動を開始しました。

2012

つながる人の和
復興プロジェクト気仙沼

地域コミュニティ支援として、前浜地区のコミュニティセンターの住民参加型での再建の支援や、仮設住宅から外に出る機会づくりのためのイベントなどを開催しました。まちづくり支援として、住民の声を気仙沼のまちづくりに反映させるために、住民参加型のワークショップを開催しました。また子ども支援として、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会と協力し、大谷地区の遊び場（あそびーばー）の運営や、夏休みなど長期の休みを利用した絵を描くことを通した心のケア、鶴見大学学生災害ボランティアチームと協力した学習支援を通した居場所づくりを行いました。生業支援として、蔵内地区の養殖漁業の復旧のためのボランティア派遣や、商品化した「こいわかめ」の販路開拓も行いました。

気仙沼市で活動する支援団体の連絡会の開催調整、ボランティア連絡会への出席、行政や地元商業セクターのとの連携を行うなどネットワーク作りにも積極的に取り組んでいます。

いわてを走る移動図書館プロジェクト

陸前高田市、大船渡市、大槌町、山田町の公立図書館は、全部または一部の図書館機能を失うほど大きな被害を受けました。公共図書館サービスを再開した市町村もありますが、仮設団地から図書館へのアクセスが悪いなどの課題もあり、これら4市町に暮らす方たちの本に触れる機会を途切れさせてはならないと、移動図書館活動を行っています。

移動図書館は4市町28の仮設団地と1校の小学校を巡回。2週間に一度伺い、一人5冊までの貸し出しを行っています。またリクエストにもお応えし、「立ち読み お茶のみ おたのしみ」のキャッチフレーズそのままにお茶を飲めるスペースを設け、笑顔あふれる集いの場にもなっています。2011年7月から2012年12月末までに、のべ1万1,178人の方にご利用いただき、のべ2万5,088冊の図書を貸し出しました。

2012年2月に大槌町の金沢仮設団地内に、4月には陸前高田市のオートキャンプ場モビリア仮設団地内にそれぞれ図書室を開設。ほか大槌町の仮設団地の集会場に本棚を設置。本の入れ替えも定期的に行い、本を借りるときや返すときに記入する貸出帳は利用者とスタッフの交換日記のような、コミュニケーションツールにもなっています。

みやぎ／ふくしまを走る
移動図書館プロジェクト

2012年9月より宮城県亘理郡山元町の8カ所の仮設団地、10月より福島県南相馬市鹿島区の5カ所の仮設団地にて移動図書館活動を開始しました。いわてを走る移動図書館プロジェクトと同様に、本の貸し出しだけでなく、お茶のみなど集いの場づくりを行っています。

2013

つながる人の和
復興プロジェクト気仙沼

- 専門家と協力し、住民の声を聞きながら行政との調整を担う防災集団移転支援事業を引き続き実施。
- 専門家や大学ネットワークと連携し、住民とともにまちづくり支援を引き続き実施。
- 住民参加型での前浜コミュニティセンター再建、再建後の運営を支援。
- 子どもたちの長期の休みを利用した子どもの居場所づくり（心のケアを含む）を引き続き実施。
- ワカメ等養殖漁業の体験プログラムを通した、浜地域の活性化の促進。
- 行政や他団体と協力し、地域資源を活用した復興支援及び観光プログラムの開発と実施。

いわてを走る移動図書館プロジェクト

- 移動図書館活動、コミュニティ図書室の運営、文庫活動を引き続き実施。
- 公立図書館再建、アーカイブ構築の両サポート。
- お話し会、読書感想文サポートなどの学習支援、イベントを開催。
- 陸前高田コミュニティー図書室を支える友の会の立ち上げ。
- 図書館関係の機関、団体、個人とのネットワーク構築。

みやぎ／ふくしまを走る
移動図書館プロジェクト

- 移動図書館活動の巡回場所の拡充。
- 県内外避難者をつなぐ、伝統文化芸術の調査。

①仮設団地の隣の丘にて（山元）
②図書館の代わりにはなれなくとも（岩手）
③立ち読み お茶のみ おたのしみ（岩手）
④ボランティアの声でがんばれる（気仙沼）

日本
Japan

毎年12月に行われるSVAのつどい

2012年度は昔からのご支援者だけではなく、最近SVAを知ってくださった方とお話をする機会があり、なぜSVAがこの活動を始め、今後も継続していく必要があるのかを改めて考える機会となりました。新規に2,649人の方がご支援してくださいました。

2013年度は、繋がりをもっていただいた方がSVAのファンになっていただけるようにコミュニケーションを丁寧にとっていきたいと思います。

アジアの図書館サポーター

図書館への思いは、国境をこえる

図書館を通して、活動地と日本をつないでいます。年に1度、活動地の子どもたちからの写真入りメッセージカードをお送りしています。

11月に行ったラオスへのスタディツアーには、サポーターの方々もご参加くださいました。2012年末現在、684人、773口の登録をいただいています。

2012年末で、サポーター募金からタイへの直接支援は終了しました。引き続き、より困難な状況にある国々での活動を行ってまいりますので、サポーターとして支えてください。

2012年3月

保存版

お寺のための防災ガイド

東日本大震災では東北を中心に100カ寺近い寺院が避難所として地域住民を受け入れました。またボランティア団体（NPO/NGO）へ境内や伽藍を開放し、地域の支援拠点となった寺院も数多くありました。シャンティ国際ボランティア会（SVA）も気仙沼市の唐桑町寺院の境内地を提供いただき、現地事務所を構えて復興支援を継続しています。今回は被災地寺院の貴重な教訓と、お寺の災害に対する備え、更に避難所になった際に必要なことをお伝えいたします。

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

広報

一方的な発信ではなく、役に立つ情報を

お寺が避難所になった時の対応をまとめた「お寺のための防災ガイド」発行。新聞にも掲載され、たくさんのお問い合わせをいただいました。

またTwitterやFacebookの活用を本格的に開始しました。これからも透明性の確保に努めていきます。

2013年はホームページがリニューアルされます。見やすく、現地の情報をさらにスピーディーにお届けしてまいります。

絵本を届ける運動

海をこえ、本を通して生まれる出会い

2012年度分として、1万5,820冊の絵本を活動地へ発送。1999年の事業開始以来、送付冊数は20万冊を超えました。

きれいに翻訳シール貼りをしてくださる方が増え、活動地でも喜ばれています。

15周年にあたる2013年度は、合計1万5,595冊を目標にご協力を呼びかけます。

クラフト・エイド

フェアトレードで人と人をつなげます

2012年は「フェアトレードでつながる」をテーマに取り組んだ1年でした。

恒例となった「一日だけのショップ」ではラッピングワークショップや現地報告会を行い、ネットショップでは毎月特別企画を行いました。メディア12社に記事掲載され、新規協力者が350人増えました。

2013年は現地生産者の調査に力をいれ、クラフトを通してアジアと日本の協力者をよりつないでいきます。

リサイクル・ブック・エイド

手軽にできる国際協力として

2012年は、957件（新規294件）のお申し込みをいただき、約11万7千点の本などをご寄贈いただきました。

費用がかからず、気軽に国際協力ができるプログラムであるため、個人の方はもちろん、学校、企業、団体の多くの方々にご協力いただきました。

2013年は、ゲーム機・ゲームソフトの回収を強調し、より多くのアジアの子どもたちの教育支援につなげます。

海外事業支援

海外事務所の運営を支える

多くの方々からのご支援を受け海外事業の募金をほぼ目標通りに達成することができました。

事業運営面ではミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタンそしてタイでの事業終了時評価、運営現地化行動計画（2013 - 2015）作成と3年目に入ったシーカー・アジア財団自立化計画等へのサポートを行いました。

2013年度は運営現地化行動計画にそった人材育成や事業運営面への支援を引き続き行います。

2012年度正味財産増減計算書

2012年1月1日～2012年12月31日

一般正味財産の部

◎経常増減の部

（単位：円）

(1) 経常収益		
	① 基本財産運用益	316,957
	② 特定資産運用益	93,215
	③ 受取会費	27,575,000
	④ 受取寄付金	411,496,604
	⑤ 受取補助金等	128,493,952
	⑥ 事業収益	54,716,174
	⑦ 雑収益	2,775,134
	経常収益計	**625,467,036**
(2) 経常費用		
	①事業費	
	公益目的事業 1 途上国における開発協力事業	
	タイ事業費	15,462,043
	カンボジア事業費	90,563,906
	ラオス事業費	40,117,599
	ミャンマー難民事業費	35,220,035
	アフガニスタン事業費	117,889,216
	海外事業支援費	31,168,330
	アジアの図書館サポーター事業費	5,217,663
	公益目的事業 1 計	**335,638,792**
	公益目的事業 2 国内・国外における緊急救援事業	
	東日本大震災支援事業費	118,239,835
	タイ水害支援事業費	5,394,474
	カンボジア水害支援事業費	4,356,474
	緊急救援事業支援費	1,174,092
	公益目的事業 2 計	**129,164,875**
	公益目的事業 3 開発協力事業に関する普及啓発事業	
	絵本を届ける運動事業費	29,223,505
	広報事業費	33,570,506
	公益目的事業 3 計	**62,794,011**
	公益目的事業共通事業費	13,430,089
	公益目的事業合計	**541,027,767**
	収益事業等	
	クラフトエイド事業費	27,952,423
	業務委託費（コンサル）	95,236
	リサイクルブックエイド事業費	8,819,027
	30周年記念事業費	38,582
	収益事業等計	**36,905,268**
	②管理費	32,111,606
	経常費用計	**610,044,641**
	評価損益等調整前当期経常増減額	15,422,395
	評価損益等計	**0**
	当期経常増減額	**15,422,395**

◎経常外増減の部

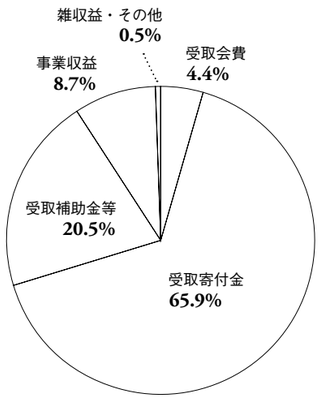
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
固定資産売却損	318,315
補助金返還損失	12,442,274
法人税、住民税及び事業税	70,000
経常外費用計	12,830,589
当期経常外増減額	▲12,830,589
当期一般正味財産増減額	2,591,806
一般正味財産期首残高	193,267,816
一般正味財産期末残高	**195,859,622**

指定正味財産増減の部

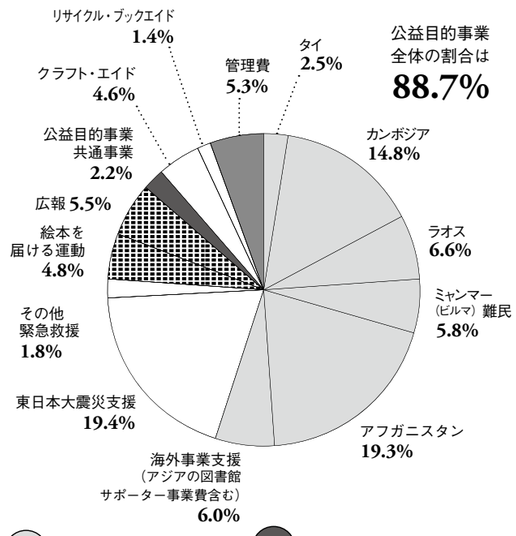
（単位：円）

① 基本財産運用益	316,957
② 受取補助金	137,026,734
③ 受取寄付金	134,839,093
④ 一般正味財産への振替額	▲267,345,377
当期指定正味財産増減額	4,837,407
指定正味財産期首残高	682,121,988
指定正味財産期末残高	**686,959,395**
正味財産期末残高	**882,819,017**

収益



費用



公益目的事業全体の割合は **88.7%**

公益目的事業1：**55.0%**　公益目的事業共通事業：**2.2%**

公益目的事業2：**21.2%**　収益事業等：**6.0%**

公益目的事業3：**10.3%**　管理費：**5.3%**

貸借対照表

2012年12月31日現在

◎資産の部

（単位：円）

(1) 流動資産		
現金預金		203,156,487
貯蔵品		
	手工芸品	3,982,124
	その他貯蔵品	315,028
売掛金		816,755
前払金		6,905,559
短期貸付金		2,667,387
仮払金		100,000
流動資産合計		**217,943,340**
(2) 固定資産		
（1）基本財産		
	基本金預金	4,238
	投資有価証券（国債）	49,995,762
基本財産合計		**50,000,000**
（2）特定資産		
	民間補助金預金	172,895,673
	寄付金預金	482,965,986
	車両運搬具（岩手分）	23,713,531
特定資産合計		**679,575,190**
（3）その他固定資産		
	車両	9,142,913
	備品	246,164
	電話加入権	70,157
	ソフトウェア	108,459
	差入保証金	2,345,150
その他固定資産合計		**11,912,843**
固定資産合計		**741,488,033**
資産合計		**959,431,373**

◎負債の部

(1) 流動負債	
未払金	960,583
前受金	29,426,474
預り金	7,851,071
預り税金保険料	3,873,666
未払消費税	414,668
未払法人税等	70,000
流動負債合計	**42,596,462**
(2) 固定負債	
退職給付引当金	15,075,894
役員退職慰労引当金	1,740,000
焼野教育支援預り金	17,200,000
固定負債合計	34,015,894
負債合計	**76,612,356**

◎正味財産の部

(1) 指定正味財産	
基本金	50,000,000
国庫補助金	0
民間補助金	172,895,673
寄付金	463,171,491
受贈固定資産（車両運搬具・岩手分）	892,231
指定正味財産合計	**686,959,395**
（うち基本財産への充当額）	(50,000,000)
（うち特定資産への充当額）	(636,959,395)
(2) 一般正味財産	**195,859,622**
（うち基本財産への充当額）	0
（うち特定資産への充当額）	(25,415,795)
正味財産合計	**882,819,017**
負債及び正味財産合計	**959,431,373**

2013年度収支予算書

2013年1月1日～2013年12月31日

一般正味財産増減の部

◎経常増減の部

（単位：円）

(1) 経常収益		
	① 基本財産運用益	300,000
	② 特定資産運用益	150,000
	③ 受取会費	28,500,000
	④ 受取寄付金	421,192,609
	⑤ 受取補助金等	139,222,120
	⑥ 事業収益	72,026,696
	⑦ 雑収益	5,036,000
	経常収益計	**666,427,425**
(2) 経常費用		
	① 事業費	
	タイ事業費	11,544,000
	カンボジア事業費	99,525,394
	ラオス事業費	36,609,701
	ミャンマー難民事業費	29,258,768
	アフガニスタン事業費	112,927,973
	現地職員退職給付費用	883,200
	緊急救援事業費	35,145,000
	絵本届ける運動絵本購入費用	13,630,000
	クラフト・エイド売上原価	13,000,000
	ＲＢＡ販売原価	6,750,000
	人件費	204,600,800
	東京事務所事業間接費	84,281,070
	② 管理費	26,150,380
	経常費用計	**674,306,286**
	当期経常増減額	**▲7,878,861**

◎経常外増減の部

(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	
法人税	70,000
臨時事業費	4,111,000
経常外費用計	4,181,000
当期経常外増減額	**▲4,181,000**
当期一般正味財産増減額	▲12,059,861
一般正味財産期首残高	190,717,636
一般正味財産期末残高	**178,657,775**

◎指定正味財産増減の部

受取補助金等	0
受取寄附金	65,465,000
一般正味財産への振替額	163,506,710
当期指定正味財産増減額	▲98,041,710
指定正味財産期首残高	559,339,389
指定正味財産期末残高	461,297,679
正味財産期末残高	**639,955,454**

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、
当会監事による監査及び田中義幸公認会計士事務所による
財務諸表の外部監査を受けております。

組織ネットワーク
Organization &Network

◎会員

会員合計	1,924人
社員会員	315人
個人会員	262人
団体会員	53人
賛助会員	1,609人
個人会員	1,422人
団体会員	187人

（2012年12月31日現在）

◎国内における主な受賞歴

正力松太郎賞（1984年）
ソロプチミスト日本財団賞（1985年）
外務大臣賞（1988年）
毎日国際交流賞（1994年）
東京都豊島区感謝状（1995年）
防災担当大臣賞（2004年）
兵庫県知事感謝状（2005年）
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」（2008年）
宮城県社会福祉協議会感謝状（2011年）

（2013年4月1日現在）

◎名誉会長

松永 然道　静岡県・宗徳院東堂

◎顧問

足立 房夫　社団法人協力隊を育てる会会長
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長
阿部 豊淳　宮城県・光寿院住職
荒巻 裕　近畿大学副学長・総合社会学部長
小野田 全宏　特定非営利活動法人
静岡県ボランティア協会常務理事
川原 英照　熊本県・蓮華院誕生寺貫主
特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会会長
白石 孝　荒川区職員労働組合特別執行委員
籏本 宏昌　東京都・泰宗寺住職
松野 宗純　福井県・地蔵院東堂、
横浜ルネッサンスPHP友の会相談役

◎SVA専門アドバイザー

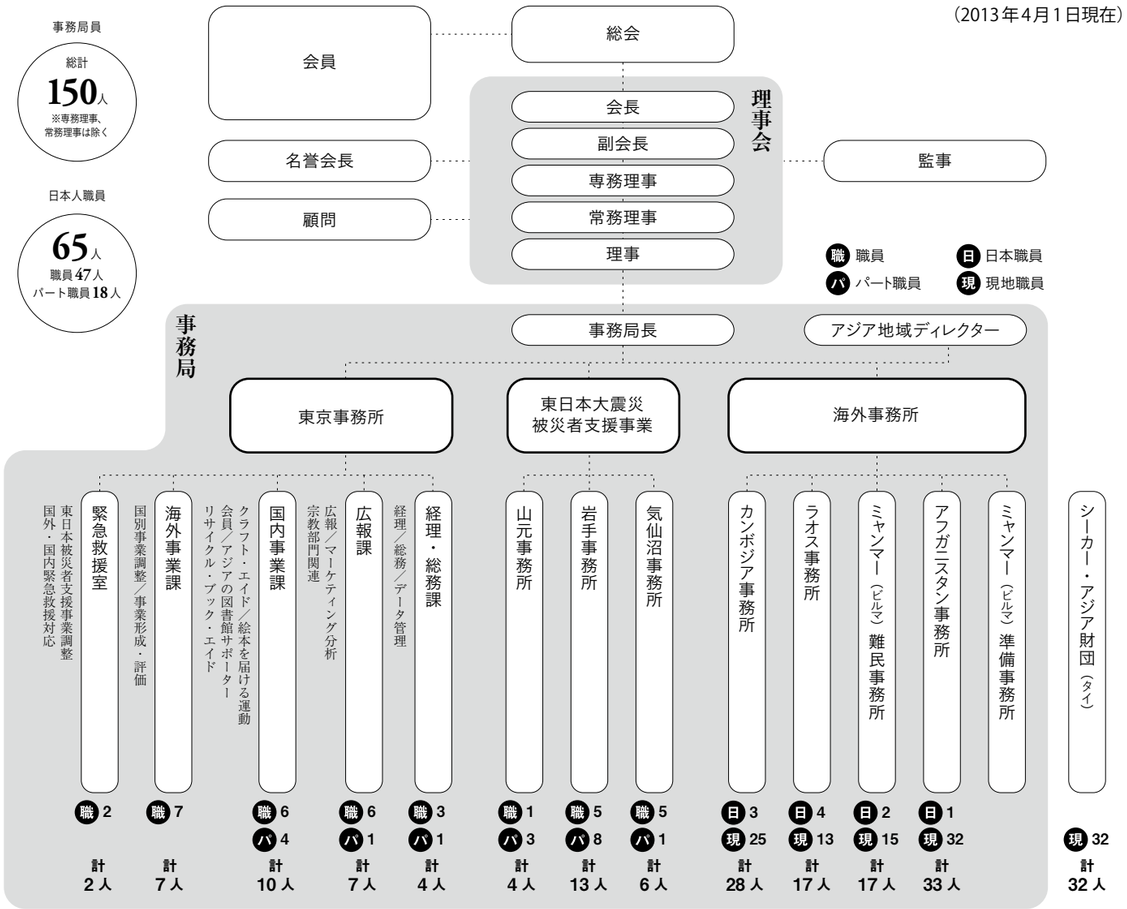
佐藤 涼子　子どもと読書のコ―ディネ―ター―&ストーリーテラー
田尻 佳史　認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
常務理事・事務局長
田中 弥生　日本NPO学会会長
松尾 純代　大阪マイペンライ運営委員

◎役員

会長	若林恭英	長野県・安楽寺住職
副会長	神津佳予子	有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長
副会長	三部義道	山形県・松林寺住職
専務理事	茅野俊幸	長野県・瑞松寺住職
常務理事	市川　斉	SVA常勤役員
常務理事	秦　辰也	近畿大学総合社会学部総合社会学科社会・マスメディア系専攻教授
常務理事	早坂文明	宮城県・徳本寺住職
理事	有馬嗣朗	山口県・原江寺住職
理事	磯辺康子	神戸新聞社会部デスク兼編集委員
理事	岡本　真	アカデミック・リソース・ガイド編集者
理事	倉科利行	長野県・全久院住職
理事	神　仁	財団法人全国青少年教化協議会主幹
理事	関　尚士	SVA事務局長
理事	長浜洋二	NPOマーケティング研究所代表
理事	永堀宏美	人財育成コンサルタント
理事	野村修一	弁護士
理事	笛岡賢司	静岡県・龍谷寺住職
理事	八木沢克昌	SVAアジア地域ディレクター
理事	渡辺恵司	ワタケイ紙器株式会社代表取締役会長
理事	渡邊智恵子	株式会社アバンティ代表取締役
監事	青木利元	ボランティア活動国際研究会代表
監事	増田和生	自治労大阪府本部特別執行委員

（2013年4月1日現在）

（2013年4月1日現在）



参加ネットワーク一覧

◎国内

The Asia Disaster Reduction & Response Network（ADRRN）【メンバー】／動く→動かす【フレンズ会員】／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【監事】／NGOと企業の連携推進ネットワーク【会員】／NGO–労働組合国際協働フォーラム【団体会員】／開発教育協会（DEAR）【団体会員】／紙芝居文化推進協議会【会員】／カンボジア市民フォーラム【世話人】／教育協力NGOネットワーク（JNNE）【事務局長】／国際協力NGOセンター（JANIC）【正会員】／災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議（支援P）【検討委員】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助会員】／ジャパン・プラットフォーム（JPF）【会員】／地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）【団体会員】／震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）【会員】／東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会【委員】／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表、運営委員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク（JANN）【団体会員】／日本NPOセンター【会員】／日本図書館協会【会員】／日本ファンドレイジング協会【団体会員】／日本UNHCR－NGOs評議会（J-FUN）【団体会員】／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）【団体会員】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／貧困のない世界の実現をめざすネットワーク日本（GCAP Japan）【サポーター】／仏教ＮＧＯネットワーク（BNN）【副代表、運営委員】

◎海外

●タイ　Books for Children Foundation【会員】
Task Force for Children in Thailand (TFCT)【会員】
The Publishers and Booksellers Association of Thailand【会員】
いきいきした学校図書館を考えるネットワーク【会員】
●カンボジア　Cooperation Committee for Cambodia (CCC)【会員】／Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)【世話人】／NGO Education Partnership (NEP)【会員】／カンボジア日本人会(JACAM)【会長】／カンボジア市民フォーラム【現地世話人】
●ラオス　International NGO Network, Education Sector Group【会員】／International NGO Network【会員】／Japanese NGO Meeting (JANM)【参加】
●ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ　Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand (CCSDPT)（難民支援事業調整委員会）【会員】
●アフガニスタン　Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)【会員】
●全体　Asian South Pacific Association for Basic and Adult Education (ASPBAE)【理事】

（2013年4月1日現在）

手を、とりあうこと。

寄付金について、税の優遇措置が、受けられます。

募金には所得税、住民税、法人税及び相続税の税控除が認められています。当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。